

演 題：人は後ろ向きに未来に入って行く！—今を、そして未来を変えるために！—

期日：令和6年9月12日（木） 会場：黒石高等学校体育館

期日：令和6年9月13日（金） 会場：弘前南高等学校体育館

【講演の記録】

「自分は何のために生まれたのか？」「何のために学ぶのか？」「何のために働くのか？」、折角この世に生を受けたのです。自分が存在した価値や意味を遺すことが、この世に生を受けた本当の意義だと思うのです。しかしながら、未来を予知することは不可能です。ただ、フランスの詩人が1つの道標を与えてくれます。「湖に浮かべたボートを漕ぐように、人は後ろ向きに未来に入って行く、目に映るのは過去の風景ばかり、明日の景色は誰も知らない。」（ポール・ヴァレリー）

ボートの漕ぎ手に前方の景色は見えません。目に映るのは船尾（＝過去）の風景ばかり。船先（＝未来）のことは見ることはできません。では、逆にしてみてはどうでしょうか？ 船先と対面して漕いではまっすぐ進まないばかりか、オールに力が伝わらず、スピードは出ません。そこで、まずは過去を振り返ってみましょう。そして前景（＝未来）を意識しながらも、船尾（＝過去）から流れる航跡波をしっかりと確認してオールを漕いでみてください。そうすればボートは安定し、思いもしないスムーズさで目的地にたどり着くことができるはずです。では一体、船先を安定させ、自分の持てる力の全てをオールに伝えるにはどうすれば良いのか？ それは「志」を立てる”こと”です。では、「志」とは何か？ 皆さんご存知の吉田松陰は云います。「全ては“志”を立てることから始まる！」“志”とは「成し遂げようとする目標を心に決める」という明確な意志が含まれています。加えて、自己を超越して、「世のため、人のため、そして人類の未来のため」といったように、自分以外の人々の幸福や繁栄を目指すものです。（利他心）つまり、目先のことではなく、内なる心にどっしりと根を張り、苦しくても挫けることなく、何年掛けても、追い求める強い気持ちを意味します。この点で個人的目標設定が主の夢とは異なります。因みに、夢の横に人偏を加えると“夢”（はかな）いという字になります。それには「脆くて長続きしない」という意味があります。吉田松陰、野口英世、渋沢栄一…、海外ではエジソン、アインシュタイン、ベートーヴェン、ガンジー、キング牧師、マザー・テレサ、スティーブ・ジョブズ…。いつの時代でも、歴史上の偉人は、しっかりした“志”を持ち、自分のためだけではなく、「世のため、人のため、そして人類の未来のため」という利他の心が強くあったのです。だからこそ、“志”を果たした偉人達は私達に感動を与え、彼等に畏敬の念を持つのです。

では、「志」を立てるには何が必要でしょうか？ ①読書：優れた人物の生き方や考え方は私達を勇気づけ、様々な知恵や希望を与えてくれます。また、新たな考え方・視点は、成功して独り善がりになった時、また失敗して失意のどん底にある時にも、先人の生き様から、「かくありたい！自分の理想像」を提示してくれます。加えて「どのような人間になるべきか？」という自分の人生目標の発見に繋がります。②感動：“志”を育むには感動です。感動と真逆の関係にあるのが、「当然や、当たり前」です。例えば、学校の先生方が丹精尽くしてご指導して下さるのは当たり前、チームスポーツで選手がチーム勝利のために、自分を犠牲にするのは当たり前。当然のことながら、当たり前からは何も生まれません。感動とは「ある物事に感じて深く心を動かされること」です。人間は感動を与えられることからこそ、今度は「感動を与える自分」、「理想とする自分」を想像する機会が与えられます。心揺さぶられ、「感極まって感動の涙をこぼす時」、「いつかは自分も！と思う時」、人は今までの自分を変えようとする機運が高まります。③挫折：“志”を明確なものにするためには、挫折＝正確に云えば「挫折した後の心構え」が大切です。私達は皆、できるならば苦難や困難は避けたいと思っています。しかしながら、人は、時として不意の挫折を経験するものです。恐らく世の偉人や一流と呼ばれる人は必ず挫折を経験しています。オリンピック・パラリンピックでの勝利インタビューでも聞かれたように、“志ある者”は、その殆どが過去の挫折や失敗を顧みて「つらい時期があったからこそ、今の自分がある！」と答えています。「挫折はチャンスが形を変えて目の前に現れたもの」として捉えるべきです。挫折を経験したからこそ、人の痛みを知り、人の支えの大切さを知る機会が与えられ、今度は自分が恩返しする番、つまり“志”が立つ切っ掛けとなります。④感謝：パリ・オリンピック・パラリンピックでも日本人選手から発する言葉は「感謝」の連続でした。感謝は、感動と同様に「当然や、当たり前」とは真逆の関係です。感謝することには、⑦嫉妬や敵意、欲望を抑え、道徳的な人間になれる。④自分にうぬぼれることなく、相手に優しくなれる。⑤感謝する人間は、やがて感謝される人間となりうる、人格の成長に繋がる等々。人の温かさ、大切さを

知り“志”を育む契機となります。

「今を、そして未来を変えたい皆さん」、また「今を、そして未来を再考してみたい皆さん」へ!“志”を立てましょう!人間は“志”があるから頑張り続けられます。一度しかない人生。“志”を高くして意義のある人生を歩んでください。期待しております。

【質疑応答】

(黒石高等学校)

生徒:「志は人生をかけて何かを成し遂げようとする目標を心に決めること」とありましたが、先生は一番何のために成し遂げようとする目標を心に決めていますか。

講師:高校の時は、学校の先生になりたかった。世界史の先生として歴史の楽しさを教えたかった。日本人の考える歴史と西洋人の考える歴史は全く違っている。歴史はhistory、つまり物語である。連続性があり今と過去は繋がっている。全て過去のものが歴史である。例えば、帝国主義の時代、戦争は当たり前のことである。当時は力が強いことが良いことであった。しかし、今は弱者への思いやりとか言われている。歴史を学ぶ時、今の価値観で過去を裁いてはいけない。それは大きな間違いである。時代によって価値観が変わってくる。高校時代は歴史の先生になって歴史の素晴らしさを教えたかった。今は、すべて学生のために、100%学生のために、学生が豊かな人生を歩んでほしいという思いでいる。

(弘前南高等学校)

生徒:本を読んで人生が変わったとありましたが、心境や志にどのような変化がありましたか。

講師:妬み、嫉み、奢り、昂ぶりなど、醜い心がわかった。これらの醜い心は人間の本能であり、誰もが持っている。みなさんには、それを制御する心を持ってほしい。

生徒:先生の挫折について教えてください。

講師:挫折したときに救ってくれたのは本だった。挫折を経験して、それをどう乗り越えるかは、自分は本が教えてくれた。今のうちに好きな本を見つけてほしい。

生徒:挫折の中でも立ち直れないこともあるのではないですか。

講師:挫折は望んで起こることではない。進んで挫折しましょうということではない。挫折が起きたとき、その後どうするかが大切である。

生徒:人生で一番感謝したことは何ですか。

講師:自分は親に全部学費を出してもらっている。大学院まで行けて、今の自分があるのは親のおかげである。親には大変感謝している。